京城新聞

偶感

不及生

▲男と女とを合せたものが夫婦、砂糖と白湯とを混せたものが砂糖湯と申す單純なる道理より類推すれば官吏と人民とを混同せしものは果して如何なる物体と相成り候や小生は飽迄世の物知りより穿鑿いたし度候

▲ソレはさて今假りに官吏を陽とし人民を陰といたし候はんか此の兩性は遲かれ早かれ合体いたすべき性質のものに候も我が日本に於ては維新前二千二百有餘年の長き間は勿論、維新后四十一年後の今日迄も左程の形跡無之は聊か不可解の至りに候

▲不可解と申した所で別に夢殿、淺間に赴くには及ばず候も併し此の官民の不合体は文明の今日にて[illegible]現象にて[illegible]は無之[illegible]と存候[illegible]に一場の夫婦喧嘩も双方の胸の中を開いた上ならずは仲裁のいたしやう無之譯に候

▲尤も物知り者の解答を俟つ迄もなく、近頃設立の運びにいたり候彼の東洋拓殖會社の組織は此の兩者を混同し、半官半民とやらに候へば兩者の意見も疎通し感情も相照し從つて事業の成績も宜く、行く〳〵は完全なる効果を收むべしとは今より想像に難からず候も併しソコが儘にならぬは浮世の習ひと豫め注意し置くの必要有之候かと被存候

▲其は他でも無之候が伊藤公を始め現今之統監府が居留民を見ること宛も蛇蝎の如く更らに居留民の意志意見などには耳を傾けざる誤謬に候へば必ずや此兩者の仲睦まじき關係と豫想意外の好成績を擧ぐるを見なに及んで客氣と嫉妬とを起し意故惡き姑氣質を捲き出して可憐にも此の飽きも飽かれもせぬ若夫婦の間に餘計な干渉を試みはせずやと推察いたされ候

▲折柄明年は加藤肥後守淸正の三百年祭に相當し其の祭典を熊本縣下に於て擧行すとのことに候へば余輩は其の際を機とし肥後の守をして地下より蘇らしめ愛暫時拓殖會社の門前に佇立せしむやういたされ度平に希望いたし居り候呵々……

●各地方の暴徒情況

△馬山管內 海州郡及長淵郡地方には辛昇七の部下たりし殘徒徘徊せり又瓮津郡龍湖島附近には辛昇七の部下たりし韓應順及趙命西なる者賊魁となり十數名を率ひ徘徊し居るを以て目下搜索中又賊魁沈魯衛は部下約二百を率ひ康翎延平島附近に出沒海賊となり居るものゝ如し

△右管內 に於ける農作物は發育良好にして農民は秋收の豐穰ならんことを豫想し歡喜の色を呈し居れり

△天安管內 忠州天安は稍々平穩なるも其他の地方は未だ平穩に歸せず就中靑陽扶餘藍浦地方に於ては屢々賊に衝突することあり尙其情況を擧ぐれば左の如し

△忠州管內 概して平穩なるも延豐忠州提川淸安陰城郡地方には今尙少數の賊出沒せり然れども人民の被害僅少なり又地に避難せしものは漸次歸村し家屋を燒棄せられたるものは新築に着手せしもの多し

△洪州管內 賊徒の出沒頻繁にして甚だ不穩の狀態にあり藍浦、保寧郡地方に出沒する賊は晝間は行商に變裝し數名つゝ村落及市場等を徘徊して狀況を探り夜間に至れば十名乃至七十名位の團体となり義兵と稱して民財を掠奪しつゝあり目下搜索中又泰安地方に出沒する賊は晝夜の別なく民財を掠奪し八月中旬我憲兵の爲めに約三十名殺され殆んど全滅の非運に陷りたるも賊徒今尙出沒住民不安の狀態なり又靑陽郡地方は近來賊徒の出沒頻繁なるのみならず多少の賊徒增加せしものと認め元來靑陽附近は多數の金鑛坑夫居るを以て彼等は時機を見て賊徒に加はり橫暴を恣にするを以て該坑夫等の賊群に投したるもののある爲ならん又康津地方を徘徊する賊は常に少數のものなれば[illegible]方より二三十名の賊侵入することあり

△公州管內 情況を地形上錦江の兩岸に分ちたる概要左の如し

右岸錦江南岸に屬する部分は平穩なるも全羅北道に屬する恩山郡より万頃藏波の兩郡[illegible]定山、靑陽、鴻山、林川に至る線內にして扶餘、靑陽、鴻山の郡界には最も賊の出沒多し

△連山管內 一般平穩の狀態にありと雖も錦山、茂朱郡地方には尙二三十名の賊團巧みに出沒し又高山、珍山、連山、懷德郡地方に於て少數の賊出沒するも被害至つて少なし

△右管內 は一般農作物の發育良好にして人民は豐作を豫期し至る處歡聲を漏し居れり

△全州管內 賊徒の出沒稀なるも比較的不穩なりしは鎭安、任實、求仁、茂長の各郡にして就中鎭安、任實地方に出沒する賊徒は賊魁李錫龍の部下三十名內外にして各自火繩銃を携帶せるものゝ如し其他全州金堤地方は平穩なり



五月闇

（廿六）　川合柳葉

今日しも御室侯爵兄弟は家扶の大山豊春を召連れ、南彈寺畔の山川宗匠の宅に、俳筵を催ふすべく趣いた。

豫て待設けたる事とて室內も淸らかに、庭園なども木の葉一つ、塵一本も留めず、靑々とした苔は水を含み、南風は戰々と樹の間を潜つて、何樣俳句などを詠むには相應しい家である。

御室侯爵は床柱を負ふて正座に少し離れて弟雅致は庭に對して家扶の大山豊春と先づ斯う云ふ順序に席が定つた。

兄爲雅は黑絽に藤巴の五ッ紋の單衣に、同じ羽織を着流し、浮模樣のある白襦珍の帶を締め、女にしても見たい程の細い首を白絽の衿に包むで、悠々迫らざるの態度を示して居る。弟雅致は白絣の上布の單衣に、同じ紋所の五ッ紋の絽の羽織を着て白絽の帶を纏ふて、兄の爲雅よりは軀幹も高く、却つて風采が見揚つて見れる家扶の大山は千筋の糸織の單衣に絽の三ッ紋の羽織を着て[illegible]であるが、今日は究屈の[illegible]事は雅致から聞いて知つて居る、奈何か余り禮儀正しく爲ないで、矢張宗匠の資格を以つて遠慮なく添削して貰ひたい。」

「然う仰せられては誠に汗顏の至りでございますが、夫れでは御辭に從ひまして失禮致すでございます。」

それより、雅致、大山へも挨拶を述べ了ると、れ君は水も滴らんばかり美はしき化粧を凝し解いたらば地をも撫ずべき房々した髮を文金島田に結び、透綾の單衣に鳩羽色襦珍の單の帶を太鼓に締め、雪なす白足袋に小さき足を包み、疊觸も淑かに、餘物の臺の上へ折紙正しく載せた菓子を、一人分づゝ恭々しく捧げて其前に進め、其度毎に行儀正しく禮をなし、やがては宇治の玉露を淑びたる京燒の器に容れて、これも塗物の臺に載せて、一人づゝ作法正しく進めた

御免と云ふので着流しのまゝである。

山川は黑の帷子の上に三ッ紋の絽の羽織を着て、白つぽい仙臺平の袴を穿き、室の入口に恭しく座つて兩手を支き。

「これは御前には初めて尊顏を得まする、私は山川孤舟にございます、今日はかゝる荒屋も厭ひなく能こそ御尊來下されまして誠に喜ばしう存じます、以後御見知置かれて宜しくお願ひ申します。」

爲雅も機嫌麗しく、

「厄介だらうが俳句の指南が爲て貰ひたいと思つて、ハヽヽ。」

「奈何仕りまして、至つて未熟でございますから、御指南など申す譯には參りませんが、及ばずながら御相手を仕りまするでございます。」

後、次の室に退つて、恭しく一禮して、其まゝ彼方の室に退り去つた其の婀娜を含んだ姿を、先刻の程から目も離さず、恍惚として眺めて居るは、爲雅侯であつた、イヤ爲雅侯ばかりではない、宇治の雅致も、家扶の大山も均しく視線を奪れた、しかし爲雅侯の恍惚となつたは大に意味ありげであつたが、大山は全くれ君の美しくして而も良家の令孃たる態度を見て、其の何者なるかを識別せんがためで、又雅致は山川は獨身でかゝる美人の居るべき理はない、奈何して何所から連れて來たかと、それを想像せんがため注目を拂つたのである。

京城評論

十三師團の功勞

帝國の保護關係を鮮明にしたる點に於ける日韓第三協約の締結は何人の功に歸すべきや、勿論首腦者たる伊藤統監の功績たらん、大勢は伊藤統監をして止むを得ず斷せしめたり、然り大勢や伊藤統監は其締結を促したるのみ、如何に大勢は然りとするも伊藤統監にして[illegible]我に力なくんば[illegible]要求に應せざるべし、然らば[illegible]我に精兵あり、即ち十三師團の兵威なり[illegible]

伊藤統監なり、林外相なり、李完用なり、宋秉畯なり[illegible]若し駐韓軍なかりせば[illegible]韓廷從來の例に依り[illegible]日韓の關係[illegible]

[illegible]

四十七を殘す[illegible]

[illegible]せざる可らず、苟も虛榮臨飾に流れざる範圍に於て誠意の援助をなし、永く十三師團の功勞を傳へざる可らざるなり、

●漢城便り

[illegible]實行せられ候由結構に[illegible]華山の陵は大院[illegible]るもの〻由に候へば[illegible]許せらる〻は單り[illegible]希望ならんとも被存候

▲伊藤統監[illegible]に於ては米國艦隊[illegible]候が當地に於ては[illegible]華山陵參謁行列委[illegible]の事に御座候統監[illegible]幸ひにも無事に[illegible]光榮に[illegible]内外の[illegible]と存候

[illegible]明に候得共近來伊[illegible]志も疏通し互の信[illegible]御座候伊公太皇の[illegible]驗をか現はす事と相[illegible]して天下治まり陰[illegible]半島の前途に少し[illegible]

▲二十七日發行セウルプレスは『在韓國日本通信員』[illegible]論を掲げ居り候論[illegible]谷氏は大分持て居[illegible]言だに及ぼし居ら[illegible]

▲京城龍山間には目下電車と乘合馬車とが[illegible]して乘合馬車が日々[illegible]候、コールブラン氏は[illegible]公乘の役に立[illegible]明致候

▲此頃數十の韓人各所に隊を成して市内の道路を破壞し其上に少量の土砂を盛り通行人をして迷惑を感ぜしめ居候因つて余輩は之を警察に[illegible]差止めんとせしに[illegible]非ずして修繕也と余輩は[illegible]當局が自ら臨檢して韓[illegible]差止められんことを希望致候

東京電報

▲統監の大磯行

伊藤統監は古谷秘書官を隨へ本日大磯に向ふ

▲木内次官の歸任期

木内農商工部次官は來月一日出發歸任す

▲韓國委員の招待

東京商業會議所にては明后日韓國拓殖會社委員一行を招待す

▲第六師團滯韓期

第十三師團と交代すべき第六師團の滯韓期は向ふ二ケ年なり

▲韓國委員の發期

韓國拓殖會社委員一行は十日二日歸途に就く（以上廿七日發）

雜報

●水原行幸期日

韓皇水原行幸に就ては屢々記せし如くなるが行幸の期日は愈よ來る十月二日午前南大門驛發の宮中列車にて行幸の事に確定し即日御還幸の筈なり供奉員は各大臣以下二百名外に儀仗騎兵一小隊なりと又た各宮吏の乘用として人力車三百臺を同地に送る筈なりと

●股野博物館長謁見の模樣

帝室博物館長股野琢及び美術部長今泉雄作の兩氏は曾禰副統監の帶同にて廿六日午前[illegible]謁見[illegible]股野總長に對し當國に來遊せられたるを喜ぶとの御旋あり股野館長は東京出發の際韓皇太子殿下に拜謁せしに御安寧にて御勉學あらせられし旨及び明日當地出發清國を經て歸國すべき旨を言上して退殿し動物園博物館等を巡覽して正午退闕せり尚當日は東京駐剳ブラジル代理公使ルイスギマラエス氏も帶同謁見の豫定なりしも遲刻のため果さゞりしと云ふ

●統監府豫算

統監府明年度豫算は二十一日大藏省へ提出を了したり而して其の内容は總額百九十万圓内經常費百三十万圓臨時費六十萬圓にして新要求として小學校補助及び漁業組合補助費增加にして其の額六萬圓なりと

●採木公司

日清採木公使取極の規定に基き二十五日安東縣にれいて同公使の成立を告げ橋口正美、胡宗瀛の兩氏理事長に任せられたり因に元營林廠長小島少將は殘務整理のため當分同地に滯在すと

●拓殖總裁任命期

東洋拓殖會社創立に關する一般準備は十一月中旬に至らば略整理すべきを以て同時に宇佐川中將は現役の儘同社總裁に任命せらるべしと

●拓殖役員の選定難

東洋拓殖副總裁の選定に就ては桂首相、小松原文相及宇佐川中將等の間に目下相談中にして、松崎藏之助、酒匂常明兩氏の呼聲高きも未だ決定に至らず、併し兩氏以外に適任者を見出すは頗る困難なるが如し又理事及監事は第一期は株主の選擧に依らず政府之を任命すとの規定に依り、是亦其筋にて人選中なるも適任者を得ると頗る困難の模樣あり、殊に最初より準備委員として盡力せし中西讓一氏の如きは、假令選定さるゝも健康許さゞるに付、絕對に辭退すべしと言へば適任者の選定は一層困難なるべし

●警衛巡查派遣

韓皇水原行幸の當日は沿道其他の警衛として警視廳より巡查四百名を派遣する由なり

ものは[illegible]調製し尚は從來備付の容器にして破損せるものは速に修繕を加へ不足の[illegible]するは勿論傳染病流行の際は注意警戒をなす樣注意ありたし

一、種痘施行の際は接種方勵行ありたし

一、民團役所に於て施行する[illegible]

●水原行幸と臨時停車場

別項水原行幸に就き鐵道管理局は宮内府よりの交涉に依り水原に大皇橋、西湖の二臨時停車場を設けて御便宜を圖る事とせり

●宮廷列車發着時間

十月二日韓皇が水原行幸のことは別項の如くなるが宮廷列車發着時間は左の如し

南大門停車場御發　午前七時三十分
途中各停車場に停車無し
大皇橋臨時停車場御着　午前八時四十五分
御陵御展謁三時間
御陵御往復二時四十五分間
大皇橋臨時停車場御發　午後二時三十分
水原停車場に停車無し
西湖臨時停車場御着　午後二時四十三分
勸業模範場御巡見二時二分間
西湖臨時停車場御發　午後四時四十五分
途中各停車場に停車無し
南大門停車場御着　午後五時五十分

[illegible]

鴨綠江鐵橋架設の設計は韓國鐵道管理局遞藤山田兩技師の手に於て設計濟となり既に兩岸地點河底潮流等の調査を了へたれば來年度解氷を期し架設に着手せんと當局者は工事擔任技師の任命者を內定し居り架橋準備のため技師を新義州へ結氷期までに派遣し駐在せしむる由なりと

●韓人警部採用試驗

既報韓人警部採用の爲め內部警務局にて施行中なりし試驗は廿五日を以て終了したるが志願者百二十名の內筆記試驗に及第したる者四十名更に口述試驗を行ひ合格と認めらるべきもの廿三名ありしが全部採用するや否や未定なりと云ふ今右試驗問題を掲げて參考に供せん

筆記試驗問題

（一）駐在所巡查受持區內の民情報告『作文』（二）火災報告『同』（三）國法所載刑律所禁宣條々危權每故罪犯『註釋』（四）聽訟之本在於誠意誠意之本在於愼獨『同』（五）友人が暴徒に加入したるに對して忠告する文（六）警部試驗に及第したる友人に與ふる書（七）論文の國漢文飜譯

口述問題

（一）新任地に於ける執務上參考として如何なる事を調査するの要ありや（二）行政警察と司法警察の區別（三）外國人を逮捕する事を得るか（四）傳染病防遏の目的を以て人民の財產を破棄する事を得るか若し得るとすれば其の理由如何（五）裁判所の構成を述べよ（六）觀察使郡守は警察官を指揮する事を得るか（七）部下を統御する趣意を述べよ（八）暴徒鎭壓の方法（九）人民の營業は自由なるべし警察官が之に干涉又は團束する事を得るか（一〇）民事と刑事を合せ同一被告人に對し同一裁判所にて判決する事を得るか（一一）絞に處すべき囚徒逃走し再び縛に就きたるときは刑の加重は如何（一二）戶口調査の目的

●日本巡查採用試驗

內部警務局は本月廿四日より三日間日本人巡查採用試驗を執行せしが志願者百五十三名の內受驗者百十四名あり其の成績は本日發表の筈なるが成績良好なる者の中より約三十名を選拔して採用する筈なりと云ふ其の試驗問題は左の如し

廿四日

一、警察とは何ぞや
一、强盜竊盜の區別
一、告、訴告發の區別
一、渡韓後の所感を記述すべし（作文）
一、五尺の距離に六本の柱をたつる割合で六丁の距離に幾本を要するか（算術）

廿五日

一、戶口調査の目的如何
一、公訴の目的
一、犯罪とは何ぞや
一、暴徒討伐のため戰死せし遺族を慰むる文（作文）

廿六日

一、日韓兩國の關係を論述すべし（同）
一、警察官の目的如何
一、親告罪を罰せざる理由
一、令狀の種類及び効力
一、巡查採用試驗の及第を祝する文（作文）
一、暴徒討伐に關する所感を述ぶべし
一、自働車あり百三十六里の行程を十一時二十分間にて到着せりと云ふ一時間の速力は何程なりや（算術）

●民團議員豫選會

民長官選撤廢期成同盟會にて撰擧せし民團議員候補者は本日午後六時より日本人商業會議所に於て委員會を開き議員の豫選を行ふ筈なり

●仁川會議所總會

來る卅日仁川商業會議所に於ては定期總會を開き四十二年度豫算の討議をなす由

●學校聯合運動會

秋晴麗かに氣清く正に郊外散策の好時季たる昨今京城居留民團立各學校聯合運動會は既報の如く一昨二十七日東大門內訓練院に於て擧行されたり幸ひ當日は日曜に加へて打ちつゞく小春日和なれば生徒の父兄及一家は勿論一般見物人の數夥しく各々壽司行厨菓子等を携へて押し掛くるもの引きも切らず同九時頃迄には其の數約一萬人を算するに至れり之より先き京城高等女學校及び第一第二の兩小學校生徒等二千二百名は校長以下十數名の職員に引卒され運動場に到着せしが頓て豫定の時刻に至るやマツ第一に尋常三年男生徒の徒步競爭三回ありツゞいて花散し競爭綱引蝶追ひ等四十六回の競技ありしが其の活潑なる運動振りと無邪氣なる動作とは滿場の參觀者をして思はず笑壺に入らしめたるが殊に生徒の父兄及び家族等は面のあたり我が子弟の競技を目擊し眞面目に聲援する有樣は又一しほに興深かりき斯くて午前中の競技も濟み晝食後再び開始せしが其の頃には參觀者の數愈々增加し約二萬人と注せられたり來賓は曾禰副統監を初め石塚參與官村田中將佐竹秘書官巨智部博士俵次官等韓國側にては李總理大臣趙農相及び各學校教員等其の他又居留地の有志者新聞記者等なるが無事閉會せしは午後六時なりき尙は當日曾禰副統監は金百五十圓を寄附し巨智部博士俵次官等其の他の者よりも種々金品を寄附したり

●熊本縣人懇親會

同會秋季懇親會は既報の如く二十六日午後二時より南山公園に於て開會したり列席者百五十餘名にして會主の挨拶ありて宴に移り福引の餘興等を催し各自充分の懇親を結び同六時過ぎ[illegible]散會したるが頗る[illegible]

●補助憲兵募集完結

第一回補助憲兵は募集人員四千九十名は二十三日を以て完結せしが更に第二回の募集の計畫あり

●李載克の招宴

李載克氏は曩に太皇帝陛下より御前揮毫の御筆を頂戴せし祝意を表するため各大臣元老其の他重立人々を一昨日午後七時より明月館に招待し祝宴を催し午後十一時三十分散會せり

●憲兵下士の赴任

過般補充憲兵下士中三十七名は京城分隊に配屬され分隊にては約十日間警察事務に關する教育を授け終了したるに附二十九日各任地に出發す

●明石少將歸任

大邱の管區長會議に臨席せられたる明石少將は昨日歸任せり

●李學相の消息

韓南地方視察中の[illegible]ふ旨電報ありたり

●外人の統監府訪問

東京駐剳獨逸國代理公使フラルク、クロンホーム氏及英國大佐オーストウード氏同夫人は昨日統監府を訪問せられたり

●中島憲兵少佐の巡視

憲兵司令部高級副官中島憲兵少佐は滿韓憲兵隊巡視の爲め廿六日東京を出發せられたるが廿九日釜山に上陸し十月三日咸興に七日釜山大邱に八日天安を經て京城に來着せられ十一日平壤に赴き十六日同地を發せられ滿州に向はるゝ由

●美濃部盛行氏

加藤淸正公三百年祭に就ての用向にて來京滯京中なりし熊本縣飽託郡長美濃部盛行氏は本日當地出發歸熊の筈なり

●土地寄附者への木盃

四十一年十月永登浦より麻浦渡船場に通する道路布設用土地寄附の段奇特に付今回統監府より木杯下附せられたり

木杯　壹組　和歌山縣平民　岩松太郎
同　壹個　福井縣平民勳六等　用賀佐太郎
同　同　長崎縣平民　佐藤良藏

●木杯の下附

四十一年九月馬山尋常高等小學校備品世界大地圖全五軸並世界地理提要全一冊寄附の段奇特に付今回統監府より木杯一個下附せり

●賞狀の下附

四十一年六七月金泉尋常高等小學校新築費として寄附したる左の人々へ今回統監府より賞狀下附せり

賞狀　兵庫縣平民　橋本美代太郎
同　岡山縣平民　鍋島淸太郎
同　山口縣平民　竹村仙之助
同　石川縣平民　川幡與三松
同　熊本縣平民　竹本庄吉
同　廣島縣平民　田村柳右衞門

●仁川の藥價改正

仁川醫會に於ては今回藥價其他の改正を行ひたるが普通水藥大人十五錢小人十二錢及往診料五十錢を受納することに決したる由

公人私人

▲安田不二丸（統監府技師）　一昨夜巴城館へ投宿

▲古川[illegible]　在韓各官[illegible]會計檢査の爲め派遣せられ一昨日巴城館投宿

▲小菅和郎（會計檢査院檢査官補）　同上

▲掛札季藏（平壤農工銀行技師）　支配人會議列席の爲め一昨日出京山[illegible]

▲矢鍋永三郎（大邱財務監督事務官）　一昨日出京不知火館

▲中桐春太郎（統監府技師）　一昨日[illegible]城館

▲戶次兵吉（橫濱正金銀行取締役）　[illegible]日入京天眞樓

▲靑木精六（同行員）　同上

●近事片々

▲伊藤統監も愈來月中旬歸任[illegible]
み歸任の上は何か飛出す形勢片[illegible]
▲大山騷動して[illegible]一足とは[illegible]
任當時の威令今度も例に依りて例の[illegible]
▲韓人等は亦突飛なる說をなし[illegible]
容九[illegible]の上は總理大臣たるべし[illegible]
[illegible]
せらるゝ所あり今度の[illegible]
▲想像も茲に至りて極端[illegible]
平を訴へに行きたる[illegible]
▲併し日本では事情を知らぬ[illegible]
大分持てたる[illegible]多少の効能は[illegible]
▲一度は一進會內閣なるものを[illegible]
思ふ[illegible]て見たいは[illegible]も容九[illegible]
▲平壤監獄にも脫獄者出で[illegible]
は最早打捨て置けぬ當局者の[illegible]
▲現時の如き不完全なる監獄にて[illegible]
あるは寧ろ當然なり改良は將さに[illegible]
▲元山民長問題は大分八ヶ釜敷[illegible]
撰民長に就て默せる民間議員の攻[illegible]
▲如何に元山在留民が官撰民長[illegible]
るや知るべし其處邊の御用電信[illegible]
▲化けの皮の直ぐ現はるゝ贋通信[illegible]
て平氣なる御用聞き某の面の皮こそ[illegible]
▲滿鐵會社には大改革を實行して[illegible]
淘汰するよし之れ最も機宜を得たる[illegible]
▲統監府には大改革の必要なきや[illegible]
淘汰するの必要なき乎其實際は如何[illegible]
▲片々をして改革を斷行せしめば[illegible]
內二課を置くべし曰く殖民課曰く外交課[illegible]
▲特許局の如きは外交課に隸せしめ[illegible]
題を廢して殖民課にて其事務を扱へば[illegible]
▲統監には通譯と秘書官あれば可な[illegible]
頭多くて船山に登る複雜の機關は[illegible]
▲如斯にして斷然に事務を扱へば[illegible]
半數位にて事足るべきが斷行が尤も肝[illegible]
▲日本の外交官に就て倫敦にて山座[illegible]
官新聞記者を集めて丁寧に說明する所[illegible]
▲滿州問題の如きは一々證を擧げて[illegible]
解を排す其巧妙なる說明は大に利益[illegible]
▲若手外交家中にては山座は[illegible]
る一人現に角將來は好箇の外務大臣な[illegible]
▲英國倫敦に發行する新聞にて最[illegible]
あるは矢張りタイムスなれ共[illegible]
▲次で勢力あるものはデリー[illegible]
デリーメール、デリーミラー、位なり[illegible]
▲實高はタイムス[illegible]
十萬デリー[illegible]

短篇小說

舊友（五）

青楓作

「奥さん／＼あの村田樣の奥さんが、御見えになりましたよ」

「雪子さんが、そう。」

藤枝は、起つていそ／＼と出迎へるのであつた。

「雪子さん、御珍らしいこと、今もね吉と貴女の噂をして居つたところなのよ」

「そうですか、妾上らう／＼と思つても、つい自由にならないので困るのよ」

「そうでせうとも、サア何卒此處へ被爲入。今日は緩くりとね、宜いでせう」

「そうしてかまわなくつて、妾却つて御邪魔になるぞ恐入るわ」

「いゝえ不調法で濟みませんわ、妾午後から貴女を御待しやうと思つて居た位ですから。」

と坐ると、軈て女中のお吉は、茶をすゝめるのであつた。

「貴女の方は、繁多しくつて」

「妾、暑中休暇の後ですから、校務が混多して、夫がまた中々整理がつきません。眼が廻りそうですわ」

「藤枝さん、御病氣は如何なすつて」

「どうも、眠れないの」

「大頭痛も全快は覺束なからうと思ひますわ、ヒステリーですからね」

「それは困るわね、如何して貴女はそんな病に取付かれたのかと思ひますと、妾悲しくつて、學校時代には、お轉婆娘と云はれた貴女が、此の四五年の間に、活潑であつた貴女が、ソロリと變化されたのですから、妾黙つて居られないわ」

雪子は、茶を啜つて、御も語るのである。

「併し藤枝さん、彼樣に活潑であつた貴女が、そう俄かに鬱々となつたのは、思想の變化からじやなくつて、妾、確にそう思つてよ、藤枝さんそうぢやないの」

雪子は、優れた藤枝の顔を覗くのである。

「思想の變化、妾も確にそうと自覺して居ますわ、人は必ず一度は戀する時代があるもんですわね、雖然此の戀に破れて厭世に陷る人もあるのね……」

と言ひさして默した。

「妾は、樂しき戀に憧れし時代はなかつたけれど、あれその戀の果敢なくも破れしは、何時代はあらざりし、さても我が戀人よ、何處の空に在すやら、思ひの涙ホロリ」

と一寸、藤枝は涙を隱して、

「雪子さん、學校時代を回想ふと、本當に樂しい生活でわつたですわね、妾もう一度學校時代が欲しいわ」

「それは何誰も渴望むところよ、併しね、實際生活の社會も愉快なものですわ」

「雖然、それは樂しいホームに居る人のことよ、妾などは自ら信じて、獨身生活を好むだ譯じやないのですから、實に不濁りませんわ、何が樂しみに生きて居るのやらね雪子さん」

「あの貴女の獨身主義は、自信の結果じやないと有仰るの、夫じや如何な理由、猶且失戀からなの」

「まアそうですわ」

斷然言ひ放つた藤枝の顔には、時ならぬ紅葉を散らすのであつた。

「藤枝さんそうして其の戀せる人さは、一體何誰」

藤枝は、漸時、モヂ／＼して居たが

「細田正と有仰る方で、その當時には未だ早稻田の文科生でしたわ」

雪子は、始めて細田の言語の事實なるを知つたのである。

●仁川海岸の投身

投身者は綱木仙吉氏の姉　原因は云ふに云れぬ事情

仁川[illegible]綱木仙吉の姉小杉きく（四十）は一昨日未明寺町二丁目雜貨店の自宅を出て稅關埠頭に至り人目なきを幸ひ身を海中に跳らして浮きつ沈みつ苦しみ居りしが折柄滿潮時なりしかば彼の爲めに打寄せられ海岸離れず居りし所を通行せる吉貴組團平船乘木柳吉に發見せられ救ひ上げられたるが其筋の取調べによれば家計困難の爲めに覺悟の自殺を企てたるものと泣く／＼申立てたり然れども其の事情といふは暇りにも弟の仙吉が貿易商を營みて第一流の店舖を有し實妹が仙吉の養女となり又實娘が綱木の養女となり居るにして何も食ふに困る譯なきは明にして本人が世を墓なみ身を棄つるに至りたる內情こそ實に疑問といふべし一家の內情につき兎角の取沙汰されつゝある綱木一家より遂に此慘劇を演ずるに至りしこそ知る人ぞ知ることは精探の上報導する所なるべし

●仁川の暗黑

一昨夜宵未た淺き八時頃仁川市中は忽然として暗黑世界と化し有ゆる作業は停止され人は闇より闇に驅け廻りてランプの調達燈燭の注文をなすものあるやら大騷ぎをなしたるが原因といふは電氣會社の機關に損所を生じ電流が通せぬやうなりたる爲めにして此れが爲めに市中に受けたる損害は莫大なるものなりといふ

●歸り討ちに逢ふ

南山町一丁目某料理店の雇人龍目圓吉（二十）は同家の雇人なる金德七（二十）がツイ近頃同町百二十七番地雜貨商奈良田定次郎なるものに毆打され爲めに金は口惜し涙に掻き暮れて仕事さへ碌に手につかざる有樣を氣の毒に思ひナニ心配するな俺が仇を打つてやるからと力味返り一昨夕奈良田方に出掛け同人に向つて喧嘩を吹き掛けたりしに却つてアベコベに奈良田に毆打され無念の涙を絞りつゝコソ／＼家へ歸り來りたり

●横着なる人夫

本月廿六日午後六時旭町宮內府官舍用石炭運搬人壽町二丁目五番戶中尾方大分縣人楯山富三（二十）なる者石炭五千枚の物件票を以て島德宮より盜出し此の全部を擔出し終り更に五百餘枚を踏着して擔出せんとしたるを門衛巡查趙源圭に於て發見し此れを差止めたるに楯山は白銅貨四枚を趙巡查に贈りて擔出を遂げんとし却て同巡查に間貴引致せられ宮警察に於て取調の上門鑑を沒收され今後の宮闕出入を禁止せられたり

●清韓人の喧嘩

本月廿六日午後五時頃パコタ公園番人清國人孫緒隆なる者韓人車夫金在淳と車賃十錢に就きて口論し居合せたる清國人孫緒諾なる者此れに口を出し遂に車夫と喧嘩を初め互に微傷を受け車夫は說諭によりて放たれ清人孫は清國巡警署に引渡さる

●支那人の韓人拘束

中部於義宮內統戶不詳趙東先は去月本水標橋淸國人料理店東來居方にて飲んで喰つた掛食ひの滿積り積つて卅圓餘となり二進も三進も出來ず姿を見せざりしが廿六日午後一時頃來居に見附けられ來居方の閣き一室に拘束し居らるゝを警察署へ訴出たる者ありて前記二名の者は共々引致されて取調を受けたるが結局說諭の上放還さる

●石油罐の破裂

西部盤石坊亭子洞精米所李德有の雇人朱世均（三十）が廿六日午後十一時自宅据付けの機關釜に火を起さんとて石油罐を釜の口に持てゆくや機關釜の火氣之れに移り石油罐は爲めに轟然たる爆聲と共に破裂し火の付きたる石油四方に飛散し之が爲め世均は全身に石油を浴び面部腹部四肢に火傷を負ひ一時氣絶したるも蘇生したるが生命には別條なしと

●正直なヨボ車夫

一昨日訓練院の運動會の催しありしとき一人の日本婦人が表の所で客待をなし居りし韓人の車夫に向ひ兎も角も此の荷物を車に積み呉れよと白毛布頭箱風呂敷包などを托し直ちに運動會場に入りしかば車夫は心得て右の荷物を車に載せ客の出で來るを待ち受け居りしに何時迄經ても先きの客は來らず兎や斯うする中に運動會も濟みたれば今は已むなく件の荷物をば警察署に引き行き其の旨屆け出でたりとは近頃正直のヨボ車夫と云ふべし

●娘ご馬の脚の駈落ち

仁川敷島桃山町山下トメの長女カツ（十八）は丸ぽちやの色のクッキリと白い所丈は當世風なれど肝心な身の恰好と口元の工合が幾手古なので此れ迄も心から相手にする男なかりしが曲かりツ木にはクチリツ木の譬へ先達て仁川に於て興行せし白川一座の座員にて常に媼や役と下女役のみを勤め居る秋岡とかいふ下廻り役者と出來合ひ互に手に手を取りて京城に來り大和町一丁目大黑屋に潛み居り斯うなつたら何うしやうなど此の先きの身の振り方を思案中カツの實母よりの願ひ出でにより一昨日警官に手にて取り押へられたり

●他所の荷車を挽く

西部倉洞二十一統一戶趙致萬（三十）が一昨日午後四時本町筋を荷車を挽き行くを三井物產會社支店雇逸見國市なるもの認め其荷車は俺の會社の荷車なれば此方へ渡せとイヤ渡さぬと爭ひ到頭警察の厄介となり双方說諭の上引下りたるが車は僅かに三井の所有に係る由にて如何にして趙が手に入つたるかは詳かならずと

●巡查の盜難

廿六日午後十時竹園町五十七番地巡查原田小七の留守宅に泥棒忍び入り鍋一個皿一個火鉢一個桶一個外に二三點を持ち去る

●盜んだ木材を宿貸

西部生祠堂丁釜高玄景（三十）は去る廿六日午後三時頃南大門尚等女學校建築場內留置の材木若干本を盜取し之を宿貸の抵當とし南門內生祠堂了釜年方に下宿し居る處を午後五時刑事に逮捕さる

●醉漢の暴行

南部曲橋往朴今用（五十）なる者一昨日午後九時四十分頃酒に醉つ拂ひ明治町三丁目角まで來りしが何と思ひしか同所の巡查に飛び掛り帽子を取るのみか帶劍を奪はんとするなど暴行を働くにぞ巡查も已を得ず之を取押へ本署に引致せんとせしも益々亂暴するを以て人力車に乘せ本署に引致したりと云ふ

アサヒビール

●醉ドレヨボ

本洞四十九統二戶李龍孫方に一昨日午後十二時頃一人の韓人何の挨拶もなく入り來り亂暴を働くにぞ家內のものは此旨警察に訴へ出たれば巡查出張し之を取押へ警察に引致し取調べしに此者は五壯洞居住の鄭永基（二十）と云ふ醉漢なりしかば醉の醒めるまで留置き放還したりと云ふ

●有り勝ちの喧嘩

園井洞統戶不詳吳大善（三十）宅に於て一昨日午後一時頃西部銅染洞四十七統五戶李鍾裕（二十）と姉の李姓女（四十）とが喧嘩し居る旨訴出でんと警察に走る途中にて巡查に出會せ斯くと訴へたるにぞ巡查は直樣出張して說諭したれば事なく濟みたり

●妓生娼妓取締規則發布

警視廳は昨日の官報を以て京城內に於ける妓生及び娼妓營業に關する取締規則を發布し妓生娼妓とも警視廳が指定したる時期に組合を設くべしと命令したり

●ロハ飲み

廣島縣生長野末吉（二十）は一昨日午後二時頃南大門通りの小料理屋花の屋にて大枚八十錢餘の飲食を爲せしはよきも結局懷中無一物なるより此奴不都合な奴と其の筋へ突き出されたり

●小便料二十錢

一昨日長谷川町街路に小便中を巡查に認められ二十錢の科料に處せられたるは福岡縣生れ旭町二丁目白川京組事務所雇入門前新三郎と云ふ男

●石見一座乘込

新派俳優石見小次郞一座は過日仁川に於て好評を博し居りしが今回京城座に乘込み本日より開場することゝなりたり因みに京城座に於ては過日中村長右衛門一座にて歌舞伎劇を開場せし際觀客の取扱に就て信用を損せしことありしが今回は之れが回復の爲め棧敷平場とも木戶四十錢均一とし觀劇家の取扱も大に改善すると云へば石見一座と共に嘸かし好人氣を得べし

●本町座の開場

本町座にては白川一座が日本に歸りし爲め他の俳優にて開場することゝなり來月一日より開演すると云ふ

●六ツ灸の開業

近來は灸の効能に就ても次第に醫術界の研究を試むることゝなりたるが本町七丁目日韓寺の附近に開業せる六ツ灸治療所にては諸病を灸治するに大抵一二週間にて根治すとのことなり

同可娯欄（五）

魚友痴史

●都々逸

▲大韓日報●●●●タノ●●シミ欄の賑盛
婀娜な姐樣優姿の兄粹さ通との大一座

▲京城新聞●●無料●●紹介欄の便宜
出雲の神より猶有難い無料で嬉い緣結

●天氣豫報（自廿八日午後六時 至廿九日午後六時）

廿八日午前六時各地氣象概況 一般に風力弱く中部は晴天なれども他は概ね曇天にして龍岩浦に降雨せり

晴後曇り

廣告

第四回廣告

京城居留民團立各學校幼稚園聯合秋季運動會へ左記の通り金品寄附ありたり

明治四十一年九月廿八日

京城居留民團民長 熊谷賴太郎

金二圓 淸水和平
雜記帳十參冊 大久保雅彥
筆入二十五個 辯護士 岩田仙宗
金二圓 今村安之助
鉛筆十二打 海浦鶴彌
金三圓 仙波德重郞
金三圓 鈴木穆
金二圓 藤川和三郞
金五圓 赤倉吉三郞
金五圓 篠原正文
金三圓 不破象重
金二圓 八木親豐
金二圓 吉田格之進
金一圓 大塚源三郞
金一圓 池田誠夫
金一圓 中島鐵也
ズボン釣六個 大島事藏
金一圓 吉高邦彥
金二圓 三宅意美
金三圓 古迫商店
金二圓 富田商市 同 初代
金五圓 渡邊鷹次郞
金三圓 神田愛子
金二圓 吉田定吉
金三圓 阿比留鐘作
金二圓 川西商店
金一圓 加篠嘉兵衞
金一圓 秋本きく
金二圓 笠日榮吉

金[illegible]圓　ノートブック二百冊　寶丹十個　金五圓　金一百五十圓　金十圓　金三十圓　金三十圓　金三十圓　金五圓
巨智部忠承　土佐紙合資會社　京城樂器館　小林重一　曾禰荒助閣下　俵孫一　宋秉畯閣下　松井茂　趙重應閣下　長谷川好道閣下　山口かめ子

以上

講談 西山茶話 衣川（八）

桃川燕光

さて大切の秘ちやが、斯う馬へ乗ると用いて居る時「ヤ伯耆」伯「ハッ」西「歩いて居る時其方迷惑でも之を持つて行つて呉ない、其方迷惑でも之を持つて行つて呉れ」と御袂の笠に梨の枝をれ出しになる、仕ないから伯耆が其れを受取つて馬へ附た、御覧なすつた西山公、西「コレ／＼イヤ種々持つて参つて呉れるのはホた御苦労ぢやな……」人を馬鹿にして御家来方も水戸の御隠居様と聞いた一層拝を致しまして「エ、下に／＼」とつて来る、往来の者は……

甲「何だね那ア御領主が歩いて居さるに、遂に見たことのねへ髯の長いが馬に乗つてござらつしやる、那ア何つて何の神様だんべい」乙「さうよ、乃へい」乙「ホンだなア、御領主様が歩かやるほどだから神様だ違ひねへ」甲「神ちやア拝むべい」乙「其れが宜い」甲「さうわちや白髯様に違ひねへだ」甲「さう手を共かた拾りを拝みへてポン／＼西山投げ付ける。西山公も驚ろいた、西「コ／＼悪い戯をするな。どうも鳥目が頭へつて痛い、差止めろ／＼」○「コレ／＼拾つてはならん、無禮であるぞ」といが聞かない、バラ／＼投げるから、伊の家来が突然被つて居た笠を取つて抽しに至し○「エ、御信心の鬮は有難く頂戴柳は衣川の館へ乱入込みになつて、伊伯耆を招じて御饗應をいたしました衣川も大層に喜びになつて、西「斯う長厚い馳走になつては氣の毒ぢや、併し中といひ是といひつて禮を遣はす物もない一手いたして見せる、見物をいたせ」伊伯者も喜こんだ、光圀卿の能を見たいいつても却々見られるものでございませから、伯「誠に有難い仕合せ」ソコで衣川の舞能舞臺に於て、光圀卿御自慢の天の羽衣の能を遊ばしました、是がらいたして奥の出羽を御見物、廻り廻つて仙臺青葉山陸奥守綱村公に御對顔になるといふ話しでございますが是は只衣川といふ一に止め置きます。御退屈さま……。

廣告

法學士 訴訟代理人

小川勝平事務所

京城本町二丁目（電話四壹番）
大邱東外門

内科 外科 眼科 婦人科 小兒科 入院随意

吉田病院

南山町三丁目

營業科目

活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 鑄機械 製本装釘

日韓印刷株式會社

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ場ニ移轉營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

本社 京城明治町三丁目 電話（三三三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

開店六週年紀念 景品附大賣出し

拝呈弊店儀今回開店六週年大賣出し仕り候に付ては左の標準により景品呈上可仕尤も此際御調製靴は弊店獨特の技能を以て堅牢無比高尚優美に製作可仕候就ては足數に限り有之候得は此際至急御申込被下度尚御一報次第遠近に不拘店員罷出御用命相承り可申候
但し賣出靴足數は二百足を限りし定數滿了ご同時に締切可申候

景品格左に

壹等 價格金五拾圓
貳等 價格金參拾圓
參等 價格金貳拾圓

一四等 價格金十圓 四ヶ所商店商品券
一五等 價格金十圓 三越呉服券
一六等 價格金十圓 鐘屋支店商品券
一七等 價格金十圓 丸京呉服券
一八等 價格金五圓 亀屋商品券
一九等 價格金五圓 青木堂商品券
一十等 價格金五圓 辻屋商品券 梅垣雑貨店商品券
一十一等より貳百等まで壹本も空籤なし

抽籤は來る十一月三日天長節をトし各新聞社員立會の上午前より弊店に於て執行す

四十一年九月

韓國皇室製靴師
日韓諸官衙御用達

京城本町貳丁目

萩原靴商店

電話番號三一八

水道良水 專用

壽湯

壽町一丁目

毎日午後二時より開湯

電話開通 五九二番

高岡洋服店

京城明治町壹丁目

朝鮮唯一の土産夏季滋養

賜東宮殿下御買上之榮
清國領事館御買上品
韓國京城博覽會褒状受領ス

世界第一等の滋養品
牛乳鷄卵に優る効數倍

滋養強壯 人參飴

元祖發賣元 京城本町三丁目 井口顧生堂藥房

本品は滋養剤として東洋第一と稱せらるゝ純良なる朝鮮人參を以て精製したるものにて朝鮮唯一の御土産品なり本品は殊に夏季の強壯剤として頗る適切有効なるを以て何卒一度御試用の上御好評を仰ぐ
◎特約販賣は京城、釜山、仁川、平壤、開城、龍山、鎭南浦、元山及各地有名藥店雜貨店に於て最寄御買求を乞

京城本町二丁目（電話一九九番）井口大藥房
京城大販賣店 龜屋（本支）店
青木堂

特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店

（電話二五一番）

和洋酒、精酢、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール特約販賣

今回京城水道通水致候に付本日より弊湯は同水道の良水を用ゆるとに致候且入浴料は從前の通に候間相變らず陸續御入浴御引立の程願上候

水道良水 專用

日の出湯

京城旭町一丁目
電話七四八番

豫約延期廣告

大韓國大審院御編纂

日韓文對照

新法律

裁判所構成法 民刑訴訟規則 刑法大全 民事訴訟規限規則

全一冊 美本 紙數凡四百頁

上製（總クロース金文字入）定價 金壹圓 郵税 金十錢
並製 定價 金八十五錢 郵税 金八錢

右豫約發賣以來各地方の御希望者豫想外の多數に達し且遠方未着の分も不尠旁々豫定の期日（十月五日）迄には製本出來致兼候ことに相成候に就ては萬不得止該出來期日を十月二十日迄延期すると同時に豫約期限を同月五日限り締切りのところに更正致候間此段不惡御諒知被成下度尚未だ豫約御申込なき方は左の豫約方法に據り此際弊社へ御申込あらんことを伏て奉願候

豫約方法

一豫約者は上製並製共定價の一割引
上製金十錢（郵税共壹圓）並製七十六錢五厘（郵税共八十四錢五厘）
一拾冊以上取纏め豫約申込の者は左の割合に依り賞需に應ず
上製毎冊八十七錢五厘 並製同七十五錢
但郵税は何れも別に申受くること
一豫約申込所 明治町三丁目 日韓印刷株式會社
一豫約申込期限 十月五日限
一豫約者は申込ご同時に毎冊上製五十錢並製四十錢の割を以て御拂込被下度但送本を要する方は郵税共全額一時に御拂込被下度候
一出來期限 十月二十日

メリヤス 足袋 卸小賣

舶來雜貨商

中塚支店

京城本町六丁目

京城大和町一丁目 軍司令部通韓洋亭跡

御下宿

古河屋

眺望宜敷二階アリ確實ト可嘐ト勉強トハ本店ノ特色ニ御座候

長崎流

（○しるこ）
（○茶碗むし）
（○むしすし）

兼て手狹の處今回客室増築致し一層大勉強可仕候間倍々敷御光來の程奉願上候

京城南山町二丁目（南山湯上隣）

梅ケ枝の

太物 洋反 綿類 蒲團

（あ）

京城郵便局前

秋山商店

電話一七六番

六ッ灸廣告

六ッ灸の特效
痢一切立處に治すると如神 赤痢、チヨウチブス、コレラ其外下
六ッ灸の特長
するど他に並びなし 大熱を冷まし風引及マラリヤを速治
六ッ灸の特色
全治せさるとなく又再發の憂なし ヨコネ及梅毒は如何なる重患と雖も此治療料は全快の上申受く

胃病。腦病。脚氣。神經痛。リヨウマチス。トラホーム。其他眼病一切血の道。子宮。齒痛。癲癇。痳病腫物其他諸病根切

本町七丁目北入花園町

六ッ灸治療所

青木直太郎

京城旭町二丁目

辯護士 大久保雅彦

（電話八三九）

内科 外科 婦人科 入院随意

京城南山町二丁目

植村病院

（電話三三〇）

齒科治療

齒科医［illegible］野田［illegible］

民刑訴訟鑑定 登記漢城府手續 顧居代書 京城本町一丁目 民役所前

諸地鑛山測量 取金土立代辨 土地家屋賣買金錢 貸借其他諸般ノ仲介

岡田事務所

取次電話六［illegible］

入院随意

京城壽町三丁目（元阪井病院跡）

院長 陸軍三等軍醫正 高井直

高井醫院

（電話二［illegible］）

日本郵船株式會社

仁川

瀛船出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕店 電話三［illegible］

京城南大門通 巴商［illegible］ 電話三〇［illegible］

●釜山長崎門司神戸行
山東丸 ［illegible］月［illegible］日 ［illegible］
●大連、大沽、牛莊行
高砂丸 十月一日 後一［illegible］
山東丸 十月十三日 前五［illegible］
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸 十月十五日 後一［illegible］
●釜山出帆、元山浦、浦鹽行
立神丸 九月三十日
●新潟丸 十月五日正午 大連［illegible］
御乗船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎ス御送迎船ニノ御送迎ハ可申候送迎ハ…出帆ノ約五十分前ニ艀解纜ノ…

●新聞料［illegible］
●廣告料［illegible］

發行兼編輯人 秋山忠［illegible］
印刷人 高木久［illegible］
發行所 京城新聞［illegible］

［illegible］御進物用に適し腐敗の憂なし

梅林堂